

最新がん治療法学ぶ

徳大病院フォーラム スポーツ医療も



スポーツと脳、光と影

・スポーツ、筋力増強は健康、脳に良い
・脳を活性化させる
・脳の血流を良くする
・認知症を防ぐ
・老化を防ぐ

・スポーツでは、脳振盪や重大な頭部外傷が起こる
・脳振盪を繰り返すと、重大事故につながる
・脳損傷の繰り返しは、慢性脳症となりうる（認知症）

約450人がスポーツに伴うけがの危険性などを学んだフォーラム＝徳島市の徳島大大塚講堂

スポーツ医療とがんをテーマにした「徳島大学病院フォーラム2018春」（同病院主催、徳島新聞社共催）が4日、徳島市蔵本町の徳島大大塚講堂であり、約450人がスポーツに伴うけがの危険性や最新のがん治療法を学んだ。

同病院の医師7人が講演。永廣信治病院長は、頭を打つことで脳しんとうを起こすことがある柔道などの競技を例に挙げ、「症状が出にくい、繰り返すと急性硬膜下血腫など重大なリスクにつながる」と訴えた。一方、スポーツが脳に及ぼす良い影響については「海馬や小脳を発達させ、記憶力や動体視力などが向上する」と話した。後東久嗣呼吸器・膠原病内科副課長は、肺がんの最先端の治療法を紹介。十数年前までは抗がん剤治療しか選択肢がなかったが、現在は遺伝子に直接働き掛ける薬が開発され、劇的な効果を発揮しているとし、「将来的には一人一人の症例に応じた治療が実現するかもしれない」と述べた。（富士佳輝）